

県岐商 だより

No. 87

THE KEN-GI-SHO SENIOR-HIGH PRESS

○発行所 岐阜市則武新屋敷 岐阜県立岐阜商業高等学校PTA <https://school.gifu-net.ed.jp/wordpress/gifu-chs/>

校外研修 2025.5.1



1年生 リトルワールド



2年生 高山市内



3年生 長島スパランド



母校『県岐商』とは

PTA会長 井上 孝生

本年度PTA会長を仰せつかりました井上孝生と申します。日頃よりPTA活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。先日のPTA総会におきまして全議案をご信任いただきましたこと重ねて御礼申し上げます。

歴史と伝統を誇る本校は、昨年120周年を迎えました。私も卒業生の一人ですが、高校の3年間は人生において非常に大きな転換期であったと感じます。これまでの人生を振り返りますと、小学校の担任には自主自立を徹底的に学び、中学の野球指導者には厳しい練習を通じ忍耐力を学びました。そして高校生になり総合的な人間力とリーダーシップを学びました。

高2の夏、甲子園を逃したチームは翌日より猛練習開始。ある日のミーティングでキャプテン選挙がありました。なんとキャプテンを投票で選ぶというのです。決選投票の末、私はキャプテンとなりました。「えらいことになったな」というのが本音でその重責に押しつぶされそうな日々でした。当時の森川先生に信頼していただき、練習メニューや選手起用に至るまで、ほぼ全てを任せていただきました。中途半端だと信頼に答えられない、「嫌われてもいい」あえて厳しい道を選んだことを覚えています。高校生にとっては大変重い決断だったでしょう。当時の野球ノートを読み返しますと、これを高校生が経験していたのか、と思う内容です。その中でも、練習中に流行の音楽を流したり、夏の合宿を廃止したり、新たな取り組みをしました。OBからは「好ましくない」と批判されました。しかし森川先生には後に「3年連続甲子園出場する基礎を築いた」と評価していただけたことは大変うれしく感じています。

数年前に岐商凜心会の実行委員長として、母校の同窓会を担当しましたがコロナで中止を余儀なくされ、計画通りいかない状況でした。しかしながら卒業以来何十年ぶりに再会した同級生と協力し合い乗り切ることができました。結果的に何もできず終わりましたが、同窓会旗を次年度に確実に引き継ぎできたこと、同級生43回生の皆さんには感謝しかありません。

歴史や伝統を重んじ継承していくことは大切なことです。古き良き伝統を継承しつつも、時代に合った変化をしなければ組織は衰退すると考えます。母校もそんな時期に差し掛かっているのではないのでしょうか？

不撓不屈、百折不撓、岐商魂。卒業生や在校生は皆、心に宿らせています。しかし今の時代、気合いや根性だけでは乗り切れない場面が多々あります。最後は気合いと根性かもしれませんが、そこに至るプロセスは発想力や対応力が必要ではないでしょうか？県岐商での3年間は勉強以上にそういった力を備えることができる素晴らしい学校であると確信しています。したがって各方面から岐商生であれば間違いなく評価されます。

PTA活動も変化の時が近づいていると感じていますが、先生方と保護者が協力し合い、より良い環境を作ることが私どもの役割であると感じております。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

目次

| | | | |
|------------------------------------|---|---------------------|---|
| 母校『県岐商』とは (PTA会長) | 1 | 各常任委員会報告 | 4 |
| 「予測困難な時代を逞しく生きる力を育てる学校へ」(校長) | 2 | 部活動日本一 | 4 |
| 県岐商で豊かな人生を (PTA副会長) | 2 | 保険講話 | 4 |
| PTAの広場(各学年会員) | 3 | 編集後記(研修活動委員長) | 4 |
| 令和7年度PTA総会について | 4 | | |



「予測困難な時代を逞しく 生きる力を育てる学校へ」

校長 村上 宏俊

国連機関であるユニセフが今年発表した「子どもの幸福度ランキング」のうち、日本は「精神的幸福度」が36か国中32位と極めて低い順位となっています。さらに、R5の子ども家庭庁の調査で、日本、アメリカ、ドイツ、フランス、スウェーデン5か国の13歳から29歳の若者に「自分自身に満足しているか」と聞いたところ、「そう思う」と答えた割合は、5か国中16.9%で最下位となっています。一方で、他国はすべて40%ほどの回答となっています。なぜ、日本の子どもたちが、こんなに自己肯定感が低い結果になっているのでしょうか。さまざまな要因があるとは思いますが、これまで行ってきた学校教育や家庭教育は、子どもたち側からみたら果たしてどうだったのか。ひょっとすると子どもたちを大人の考える「型」のようなものにはめ込み、その「型」にはまった子を高く評価し、そうでない子を評価しないなど、子どもたちから個性や主体性を奪ってしまっていたのではないかとといった点等、私たち大人はこれまでの教育の在り方そのものを今一度考え直してみる必要があるように感じます。

現在日本は、過去に全く経験のない人口減少社会となっています。ゆえに未来が一体どうなっていくのか、予測困難な状況です。すでにさまざまな多くの課題も見

え始めている中で、今の生徒たちは10年後20年後の社会の中心となって、予測困難な時代を逞しく生き抜いていかねばなりません。本校は、120周年という節目を過ぎ、これからの新たな歩みの中で、生徒たちの個性と主体性を尊重して、何事にも果敢に立ち向かう自信と意欲を高めるとともに、旧来の「型」に収まらない個儻不羈（自由かつ独立心旺盛なさま）の気性を持った人を育てていきたいと考えております。生徒たちには、決して受け身にならず、高い志をもって自ら考え行動することを大切にしながら3年間自分を磨き、卒業後はスケールの大きな人になって、時代を切り開くビジネスリーダーとして活躍してほしいと願っています。

本校の教育目標は、「商業教育、部活動、進路達成への真摯な取組を通じてビジネスリーダーとしての資質と素養を育み、予測困難な未来を逞しく生き抜く力を身に付けた生徒を育成する」こととしております。学校としましては、その目標の達成に向けて精一杯努めてまいります。ご家庭におきましても、お子様の個性と主体性を大切にいただき、励まし応援しながら、その成長を見守っていただきたいと思っております。また、家庭と学校は言ってみれば車の両輪です。常に相互に連携しながら、ともに成長を支援していきましょう。よろしくお願いいたします。



県岐商で豊かな人生を

PTA副会長 丹羽 道治

令和7年度PTA副会長を仰せつかりました丹羽と申します。1年間精一杯務めさせていただきますので何卒よろしくお願いいたします。昨年度は創立120年という記念すべき年で盛大に催しが行われました。本年度は新たな節目へのスタートとなり身の引き締まる思いです。

私自身も本校OBで、従来この欄は部活動で輝かしい成績を収められた方が掲載されておりましたが、残念ながら私にはその様な経験はありません。

本校は皆様のご存じのように運動系・文化系ともに部活動がとても盛んな学校です。わたくしの子供は吹奏楽部に入学しており、その中で仲間と目標に向かって励んでいる姿を見て、他校では考えられない貴重な体験をしていると思っております。しかし全員が部活動をしているわけではなく、中には学校生活になじめない生徒もおられると思いますが、私自身も豊かで楽しい人生を送っておりますので特に心配する必要はないと思っております。

部活動や学校生活でつらく逃げ出したいときが来るかもしれません。そのときは、校訓である“不撓不屈”を

思い出し結果を恐れず最後までやり抜くことが重要だと思います。

PTAで学校に行く機会が多いのですが、その都度生徒たちが元気よく挨拶をしてくれます。この挨拶は大袈裟かもしれませんが人格形成においてとても重要なことだと私は思っており、それを指導しておられる先生方や学校方針を肌で感じ、今更ながら私自身が県岐商卒で良かった、娘が入学してくれて良かったと思っております。

最後になりますが、保護者としてよりよい環境を与えてあげる為には、私たちPTAがお互い連携し信頼を深めながら活動することが重要かと思っております。

PTAを取り巻く環境は総会でもお伝えしております通り、本年度より入会が任意となり厳しい運用が今後待ち受けております。一人でも多くの保護者様がPTA活動にご理解ご参加いただき、子供たちが永久的に“県岐商卒”と胸を張って言えるような持続可能な活動にしていきたいと思っておりますので、より一層のご支援をお願いいたします。

人間力

1年生会員 白木 めぐみ

県岐商の女子バスケット部を初めて見た時から憧れの高校となり、娘は進学を決めました。時には不安や葛藤を抱えながらも受験勉強を乗り越え、希望の学校の門をくぐった時のキラキラした表情は、今も忘れられません。

バスケット部に入部後は、憧れの先輩たちの真剣な顔つきや、活躍する姿に心を奪われる日々。部活後に家に帰ってくると、疲れているはずなのに目を輝かせながら先輩の話を楽しそうに話してくれる姿に、親として胸が温まります。「今日、〇〇さんと話された!」「〇〇さんのプレー、めっちゃかっこよかった!」と、興奮気味に語る様子から、尊敬する存在との出会いが子どもの心をどれほど豊かにしているかが伝わってきます。

部活動では、技術や成績だけでなく、仲間との絆や責任感、時に挫折を乗り越える力が求められます。ひたむきに練習に取り組む姿を見ると、娘が少しずつ強い心を育てているのを感じます。高校生活でのこうした経験が、将来困難を乗り越え、人と繋がり、目標に向かって努力し続ける「人間力」を育ててくれると信じています。今は失敗してもいい、遠回りしてもいい。ただ、その度に何かを感じて、成長してくれたら…。

まだ入学してわずかですが、高校生活が終わる頃、娘はどんな顔で笑っているのかな、と考えることがあります。夢に向かってまたキラキラしている姿を見られたら、親としてこれ以上幸せなことはいないかもしれない。高校生活で得る経験が、輝く未来への大きな一歩となることを願っています。

高校生活の過ごし方

2年生会員 小島 良恵

情報処理を学びたいと県岐商を希望して、徒歩で登校していた中学から、電車とバスの通学になり、活動時間の長い部活動に入部し、今までとは見る景色も環境も違った生活に大きく変わったと思います。親としては、心配なことの方が多かったのですが、無事に2年目を迎えることができました。

簿記などの初めての科目も、あっているのか楽しんで学習できているようです。県岐商は資格取得という明確な目標があることや、部活動が盛んで、素晴らしい成績を収めている人が身近にたくさんいることで、モチベーションも上がり、目指すことが同じ仲間といることに取り組みすることができる、良い環境が整っています。学ぶことの

面白さや大切さを感じてほしいです。
ITに興味があることも相まって、パソコンやスマホを手にしたのは、私よりずっと後ですが、すぐに追い越され、息子の方が使いこなしています。検索すれば何でも見ることができて、疑似体験もできますが、そこで終わらず、自分の五感を使ってさまざまな経験をしてほしいです。私の高校生活、卒業してずいぶん経っても、友達との何気ない会話も全て大切な思い出で忘れることはありません。まずは何にでも挑戦して価値観を広げ、失敗も経験としてスキルを向上させて、将来の目標に向かって行動できるように、見守る姿勢でサポートしていきたいです。充実した高校生活を送れることを願っています。

PTAの広場

「陰ながら」支える

3年生会員 早水 愛梨

月日が経つのはとても早いもので、ついこの間入学したかと思えば、もう3年生。

小学生から取り組んでいるバドミントンを強豪校で続けたいと選んだ県岐商。娘にとって困難な道なのでは、と心配もしました。

思った通り怪我など大変なこともたくさんあり、一緒に泣いたこともありました。それでも、その度に顧問の先生や担任の先生、周りの友達に助けてもらい、1つずつ乗り越えここまで来ることができました。

オーストラリアへの海外研修では、貴重な経験を積むことができました。帰ってから、ホストファミリーや現地の学校でのことを楽しそうに話す娘を見て、両親ともに心から嬉しかったことを今でも良く覚えています。

高校生時代は、親も成長する時期だと思えます。中学生までは、親が表立って支えることが多かったのに比べ、「陰ながら」支え見守ることが多くなりました。これがなかなか難しく、食事作りなど物理的なことは何とかできても、思春期の娘にいろいろと言いたくなったり、それを伝えずそっとしておいた方がいいと思うこともあり、歯がゆく感じることも多々あります。私にとって子育ては我慢を覚えた時期でもありました。我が子は割と悩み事を話してくれるのですが、この年齢ならではの悩みもあり「はて、自分の時はどうだったかな?」と遠い記憶を辿りながら一緒に考えることもあります。心も体も、子供から大人へと成長する高校生時代を支えるのは、並大抵のことではないと痛感しております。

今は進路に悩むとき、最近では自分の行きたい大学について調べたりして、大変そうではあるもののどこか楽しそうでもあります。嬉しい反面、少し寂しく思うときもあります。

来年の3月に県岐商を卒業するときには、笑顔で胸を張ってそのときを迎えられるよう、あと少し「陰ながら」娘を見守り、支えていこうと思います。

令和7年度PTA総会について

先般PTA総会が、会員1017名（委任状を含む）の出席を得て無事に開催されました。皆様のご協力により令和6年度事業報告、令和6年度決算報告、会計監査報告、令和7年度役員選出、名誉会長及び顧問の推薦、令和7年度事業計画、令和7年度予算案の7議案に承認をいただきました。



その後、PTA役員として本校の運営発展に大きく貢献いただき功績顕著で退任されました旧役員の皆様へ感謝状と記念の品を贈らせていただきました。PTA会長・副会長としてお勤めいただきました皆様方には衷心より感謝申し上げます。

各常任委員会報告

— 生活指導委員会 —

- (1) 交通安全指導
①7月・②11月
- (2) 人権講和
11月6日(木)
会場：本校体育館
みんなと仲良く楽しく笑いたい(仮)
～顔の病気で生まれた私の人生～
講師：河除 静香氏

— 進路指導委員会 —

- ◎大学見学会
6月17日(火)
見学先：滋賀大学
：立命館大学
※見学先での説明内容
大学(学部・学科)の概要、
求める人材像、入試制度、
卒業生の進路等

— 特別活動委員会 —

- ◎PTAバザー
10月24日(金)岐商祭に
おいてPTAバザーを実施。
場所は凜心会館前を予定
しています。
提供する商品は只今検
討中です。お楽しみに!

— 研修活動委員会 —

- (1) 保健講話
6月5日(木)
- (2) 救命救急講習会
7月17日(木)
- (3) 県岐商だより
・第87号発行(7)
・第88号発行(12)
・第89号発行(3)

部活動日本一

速記部 福田 奈佑

私たち速記部は、名古屋港湾会館で行われた全国高等学校選抜速記競技大会において、団体・個人ともに優勝することができました。

この大会は、私たち3年生にとって先輩方なしで挑む初めての全国大会でした。昨年は個人の部での優勝を逃し、ダブル優勝という目標を果たすことができなかったため、大会前の練習期間には、常に焦りとプレッシャーを感じていたように思います。

それでも今回、私たちが団体・個人ともに優勝することができたのは、仲間と一緒に努力した時間があったからです。速記は個人戦でありながら、団体戦でもある特殊な競技です。どれだけ仲間とともに積み上げても、本番で速記文字と向き合うのは自分一人です。一人一人が自分の不安や緊張と向き合わなければなりません。しかし、そのようなときに頼りになるのは、間違いなく仲間とともに努力した時間です。不安な気持ちを抱えながらも、仲間とともに頑張ってきた時間が、ペンを持つ瞬間に私たちに強く支えてくれます。私たちの最大の強みは、先輩後輩という年齢の垣根を超えて、足並みを揃えて努力できるという点です。この強みを大切にしてきたからこそ、それを優勝に繋げることができたと思います。

ただし、この大会で悔しい思いをした仲間もいます。思うような成績を残せなかった部員もおり、優勝の喜びの中には、それぞれの悔しさもありました。その思いをばねに、全員が悔いなく夏の大会を終えられるよう、毎日の練習に励んでいます。

支えてくださった先輩方や先生方、応援して下さる地域の方々への感謝の気持ちを忘れずに、今大会での優勝を糧にしていきたいと思います。再び優勝旗を県岐商に持ち帰るために、全力を尽くして頑張ります。



保健講話

6月5日 本校体育館で生徒・保護者対象に保健講話が行われました。

成長期である高校生の食の重要性と、アスリートが高いパフォーマンスを発揮するための食事について、池田町在住で管理栄養士・公認スポーツ栄養士・食アスリートシニアインストラクターの森 映子先生をお招きして「高校生の食事・アスリート食について」と題してお話をいただきました。

講演の中で、「スポーツをすると身体はどうなる?という問いかけに、「スポーツは体を壊す作業の繰り返しです」「スポーツをすると病気になるやすくなるのですよ」というお答えに驚き、「その壊れた体を補充・修復するのは食事しかありません」というお言葉が強く印象に残りました。

日々高みを目指して部活動に取り組む生徒や、またその食を支える保護者の皆様にとって、食事の大切さを再認識する機会になったのではないのでしょうか。



校誌「岐商」第55号

ホームページから、是非ご覧ください。
QRコード、又は
下記アドレスから
アクセスいただけます。



◎<https://gishogifushogyo.wordpress.com>
◎パスワード:Gisho

*「県岐商だより」は県岐商ホームページでもご覧いただけます。

いきいと思えます。

特に、資格取得を目指す姿勢や、部活動でのチームワークを大切にしている姿勢は、将来に向けての大きな財産になるでしょう。私たち保護者も、学校と連携し、子どもたちがより良い学びと成長を得られるようサポートしていきたいと思えます。

喜びです。

は、親としての大きな喜びです。

日々驚きと喜びを感じています。子供たちがさまざまな経験を通じて成長し、自信を深めていく様子を見ることは、親としての大きな喜びです。

研修活動委員長

長尾 純恵

